# 昭和60年度 一般会計予算 18億7100万円

## 中学校グラウンド用地取得・コミュニティセンター建設
## 税収、交付税の伸びに期待薄、苦しい財政

三月定例議会で昭和六十年度の村予算が決まりました。

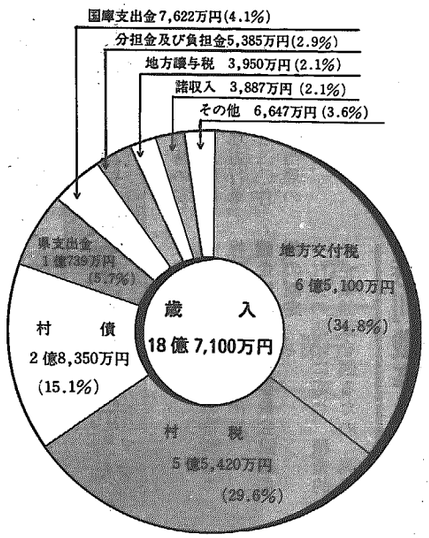
昭和六十年度は、新庁舎で村の発展をめざす歴史的な第一歩を歩み出す年。

一般会計予算は、前年度対比で一二・八%減の一八億七一〇〇万円。国民健康保険、老人保健、農業共済事業、水道事業、下水道事業の五つの特別会計予算は、総額で前年度対比四・一%増の一二億七三三九万円となりました。

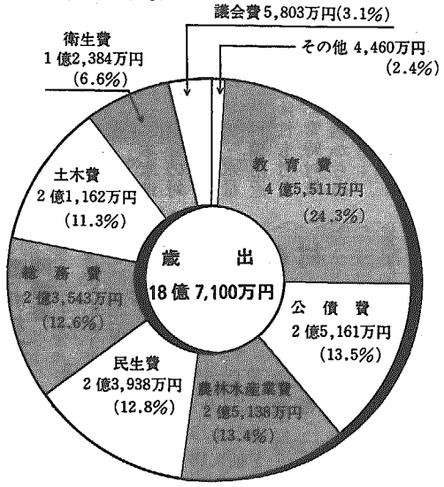
### ＜重点施策＞

1. 中学校施設の整備
2. 環境整備事業（農村総合整備モデル事業・下水道事業）の推進
3. 農業振興（新農業構造改善事業・基盤整備事業・転作定着事業）
4. 小阿賀橋取付道路の整備促進
5. 小杉コミュニティ施設の建設
6. 工場誘致の促進

（表１）歳入内訳

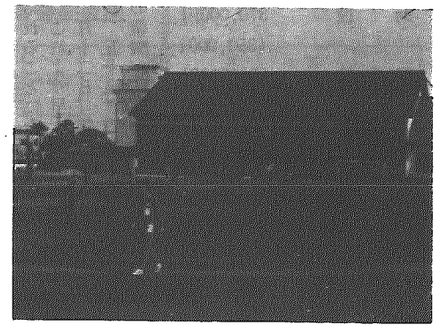



（表２）歳出内訳




村の財政状況は、歳入面で国庫補助負担率の一〇%カットをはじめ、税収や交付税の伸びがあまり期待できず、起債に依存しなければならないということで厳しい状況におかれています。加えて歳出面では人件費、公債費等義務的経費の増加、新庁舎の維持管理に多額の経費を必要とし、苦しい財政運営が余儀なくされています。

こうしたことから積極的な財源確保と、不要不急事務の整理、効率的な財政運営を配慮した予算編成がされています。



狭い横中グラウンドで、拡張が待ちのぞまれていた。

昭和六十年度事業の特色は二十一世紀にむかって横越村の将来発展をめざす、第三次総合計画に基づき策定されたもので、重点施策に示すように、横越中学校グラウンド用地の取得、小杉コミュニティセンターの建設がおもな新規事業としてあげています。また、村経済の活性化をはかるために、企業誘致委員会を設置して、積極的な誘致活動や調査・研究が行われます。

### 一般会計予算の推移

| | |
|---|---|
| 昭和５６年度 | １４億１，８００万円 |
| 昭和５７年度 | １７億８，４００万円 |
| 昭和５８年度 | １８億８，６００万円 |
| 昭和５９年度 | ２１億４，５００万円 |
| 昭和６０年度 | １８億７，１００万円 |

## お知らせ

### 中小企業設備近代化資金の申請は早めに

県では、設備の近代化を計画されている中小企業者に対し、無利子の「中小企業設備近代化資金」の貸付制度を実施しています。

昭和六十年度の受付を四月一日から行っています。借入れを希望される方は、早めに市町村商工担当課へ申請してください。

申し込み期限は、十二月二十日までとなっていますが、期限内であっても予算枠に達した時点で締め切ります。

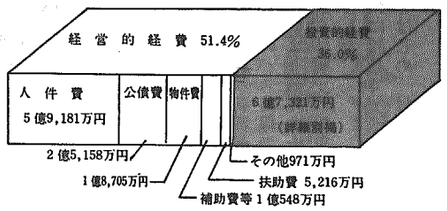
### 「なんでも相談」

**4月20日** 午前9：00～12：00 午後1：00～4：00

新庁舎の村長室で、村長が直接相談に応じます。是非ご利用を。



（表３）歳出予算の性質別内訳




### 投資的経費（臨時的経費含む）

| | |
|---|---|
| **総務**（単位は千円） | |
| ■庁舎竣工式 | 3,272 |
| ■国勢調査等 | 1,742 |
| ■交通安全施設整備 | 900 |
| **民生** | |
| ■老人保険特別会計繰出金 | 15,536 |
| ■集落間防犯整備 | 1,500 |
| **衛生** | |
| ■水道事業会計繰出金 | 2,480 |
| ■不燃物ごみ埋立場整備等 | 2,300 |
| **農業** | |
| ■農業振興 | 50,875 |

新潟米生産推進事業、コシヒカリ団地整備事業、水田利用再編対策事業、損害防止推進事業、高能率農業生産組織育成対策事業、新農業構造改善事業、畜産経営技術改善活動事業等。

| | |
|---|---|
| ■農村総合整備モデル事業他 | 127,868 |

農道整備３本、集落排水路整備２本、農業用排水路整備２本、農村公園１カ所、前郷農道整備補助、木津農免建設事業等。

| | |
|---|---|
| **商工** | |
| ■産育資金等 | 12,304 |
| **土木** | |
| ■土木一般 | 85,297 |

小阿賀橋取付道路改良、村道改良舗装、県道横越新潟線改良事業負担、生活道路補助、集落排水路改良、亀田郷地区湛水防除事業等。

| | |
|---|---|
| ■下水道事業会計繰出金 | 74,000 |
| **消防** | |
| ■消防施設整備 ポンプ格納庫、ポンプ等 | 2,400 |
| **教育** | |
| ■小学校施設整備 | 810 |
| ■中学校施設整備 グラウンド整備等 | 224,032 |
| ■社会教育等 | 64,800 |

小杉コミュニティセンター整備、村民プール補修等

| | |
|---|---|
| **その他** | |
| ■基金積立金 財政調整基金、土地開発基金等 | 1,097 |

### 一口メモ（人口8,985人（現在））

○住民一人当たり負担する税金（村税）　六一、五九一円
○住民一人当たり使われるお金　二〇七、九三五円
○住民一人当たりの借金　三一、五〇七円

## 村の人

### ここにこの人

どこの地域にも、偉大なる指導者がいるもので、機会を得たので、次の三氏をご紹介いたします。

**〈柔道を支えるお寺様〉**

西蒲味方村の高念寺住職「広川彰恩氏」は、柔道界において知らない人はいない。

昭和三十三年に高念寺道場を開設して、近郷の青少年に柔道の指導を開始する。

全日本大学選抜や新潟県選抜、白根市の中・高校生を率いてハワイやアメリカに遠征し、いずれの時も足りない旅費は私財を投じて決行されている。

子弟への教えは、一に辛抱二に我慢をモットーにして指導にあたっている。県下の一線級の指導者は、広川氏の息がかかっている。

**〈元村長、卓球の鬼指導〉**

南蒲田上町で「田巻恒彦氏」がいる。

昭和二十二年に県卓球連盟会長に就任。村長時代は政務繁多の折りでも、自ら陣頭に立ち、休日や夜間にも寸暇を惜んで指導にあたっていた。

青少年時代に鍛えられた後進達は、異句同音に「あの柔和な風貌に一度ラケットを手にすると、夜叉の如き猛者に一変するこの老いぼれと思えども、卓抜な技術と闘魂は畏怖と感嘆の情が湧いてくる」と、後進は語り、今でも元気で後進の指導にあたっている。

**〈横越村銃剣道育ての親〉**

横越村にも不屈な指導者がいる。「塚原　宏氏」その人である。少しご本人の経歴をご紹介すると、

◎昭和三年近衛歩兵第二連隊に入隊、選抜されて陸軍戸山学校に銃剣道の技を磨かれる。
◎昭和十六年に応召、満州・中国・マライと転戦後、ビルマに進駐この地で終戦を迎え二十一年に復員となる。
◎四十一年追放となっていた銃剣道が復活となるや、地元青少年の指導を開始する。
◎四十八年全国大会青年の部に、田村茂栄（駒込）、高橋憲夫（水原）、吉田吉次（新津）を引率して、輝しい戦績で全国一位となる。

監督として、指導者として生涯忘れることができないと語られている。

記述に任せると、塚原氏は壮年と間違いられるが、同氏は八十七歳の高齢である。

ご紹介した三人には、一脈と共通していることがある。一、熱烈な指導者精神がみなぎっている。一、後進を育成する精神が旺盛である。一、名利を捨て奉仕に一貫している。

まさに偉大なる指導者として讃えられる方々である。

（板垣）

## 衣食住情報

ホームフリージングは家庭調理にすっかり定着しましたが、厄介なのは野菜の冷凍法です。

植物細胞は二重構造になった細胞膜と原形質膜に囲まれていますが、凍ると植物組織が壊れたり、野菜に含まれている酸化酵素が解凍時に活性化して、野菜の味や色を変えてしまうのです。

これを防ぐために行われるのがブランチング。軽くゆでて野菜の細胞膜をあらかじめ壊し、酵素の活性を失わせて冷凍による変化を減らす方法です。ゆで時間は、沸騰した湯に野菜をいれて再度沸騰してから約一分半。手早くとり出し、氷水で急速に冷やします。この方法によるビタミンC等の流出は一〇～一五%程度。生野菜の新鮮な風味、歯ごたえは失われますが、野菜不足を補う役にはたちます。

イモやごはん、パンなどのでんぷん質食品は、冷凍向きのものが多いのですが、ジャガイモは例外。シチューやカレーを冷凍するときはジャガイモはとり除いておくほうが賢明です。